

貴講座/診療科名	解剖学及び発生生物学講座
貴講座内に女性医師の会等の組織がありますか	無

問1. 現在の貴講座・診療科に在籍している男女別医師・研究者人数をご記入ください。

(各医系講座・診療科に送付していますので、他講座・他診療科に主たる在籍がある併任者は含めないで下さい)

フルタイム勤務		男性医師数	男性(医師研究以外)研究者数	女性医師数		女性(医師以外)研究者数
				子供なし	(妊娠中含)子供あり	
	1) 教授	0	1			
	2) 准教授	0	0			
	3) 講師	0	0			
	4) 助教・助手	1	1	0	0	1
	5) 医科診療医(専任)	0	0			
	6) 医科診療医(社会人大学院生兼任)	0	0			
	7) 大学院生(専任) ←?	0	7	0	0	1
	8) 研究員					
	9) その他1(職種:) その他2(職種:)	0	1			
短時間勤務	10) 研究生	0	1	0	0	0
	11) その他1(職種:) その他2(職種:)	0	0	0	0	1
	12) 上記のうち貴講座在籍中に育休を取得した人数					

講座・診療科内の意思決定	男性	女性	非該当
13) 講座・診療科内の各種委員会等の委員延べ人数	-	-	委員会等なし

問2. 出身医師・研究者(事務・技術職員を含まない同門会員等)の男女別人数をご記入ください。

(多少の誤差はあっても構いませんので、できるだけ非該当にせず人数でご記入ください)

	男性	女性	非該当
1) 全出身医師・研究者数(大学在籍者を含む)	-	-	不明
2) 上記のうち、休業者数(固定の勤務先がない人)	-	-	不明
3) 同門会等の役員数(各種委員会等の延べ人数)	-	-	同門会役員なし

問3. 現在、貴講座・診療科として、大学在籍中の子育て中・子育て希望の女性医師への仕事・家庭両立のための配慮はどの程度されていますでしょうか？該当する欄に○をつけてください。

(3)および(6)は当直免除期間・許容育休期間を決められていればその期間も記入してください)

非該当（女性医師人がしない、など）	原則配慮しない	希望が出れば、配慮	希望が出た場合、常にある程度配慮する	積極的に配慮・支援
1) 勤務時間の軽減(時間短縮、フレックスタイム等)				
2) 仕事量の軽減				
3) チーム制(複数主治医制)による負担軽減				
4) 当直(免除期間:妊娠中・産後(どちらかに○を) ～子供が 歳 ケ月になるまで)				
5) 子供の病気・学校行事のための有給休暇取得				
6) 在籍中の妊娠・出産(挙児希望に対し)				
7) 産休明け後の育休取得 (最大許容期間: ケ月間)				

*上記配慮を受ける代わりに、当該女性医師にデメリットはありますでしょうか？

- 8) 給与面 なし ()、ある () : 具体的に ()
 9) キャリア面 なし ()、ある () : 具体的に ()
 10) その他 なし ()、ある () : 具体的に ()

*男性医師が子育て支援を希望した場合、上記を女性医師同様に配慮されますか？

- 11) 同等に配慮 ()、少しほれ配慮 ()、男性医師は原則配慮しない ()

*その他にも貴講座・診療科として在籍女性医師・子育て中医師への支援事項があれば、下記枠にご記入下さい。(当直回数半減、メンターや女性医師親睦会による相談体制がある、など)

女性に限らず男性でも子育て中の者はそちらに力を注いでいる。

当研究室には、現在 2 名の大学院生(男性)が 1 歳の子どもを養育中であり、研究時間は減っているが特に問題にしない。

問4. 現在、貴講座・診療科として、出身者(=同門会会員)の女性医師の仕事・家庭両立のための配慮はどの程度されていますでしょうか？該当する欄に○をつけてください。

出身者に対してこちらが何ができるのでしょうか？現所属の問題ではありませんか？

- 1) 出身者(関連病院等在籍者)への産休・育休支援(応援医師派遣など)
 2) 休業中の女性医師への復帰支援(研修のあっせん、復帰にサポート体制のある勤務を紹介など)
 3) 人事としての勤務地配慮(夫の勤務地を考慮など)

非該当（女性医師人がしない、など）	原則配慮しない	希望が出れば、配慮	希望が出た場合、常にある程度配慮する	積極的に配慮

*男性医師が子育て支援を希望した場合、上記を女性医師同様に配慮されますか？

- 4) 同等に配慮 ()、少しほれ配慮 ()、男性医師は原則配慮しない ()

その他にも出身（同門会）女性医師・子育て中医師に配慮している事項があれば、下記枠にアピールして下さい。

- (今回の情報提供の試みについてでも、サポートの会の開催時期についてでも、広島県医師会女性医師部会へのご要望・ご意見等ございましたら、下記枠にご自由にご記入ください。

- この調査は基礎研究については全くなじみません。
- 医師に限らず女性研究者の実態を調査すべきです。
- 大学院生の生活については、臨床と基礎、基礎の中でも医師とそうでない者とでは全く状況が異なります。男女を問わずその違いを踏まえた上での議論が必要です。
- 実際の女性研究者に対するサポートは以下のようなことが考えられます。消極的なものから列举しますと、
 - ①修業年限を越えることをいとわない(私はむしろ勧めています)
 - ②好きな時間に来て、好きな時間に帰る(セミナー等全員が集まるとき以外はそうしています)
 - ③研究テーマの設定を、①②に応じてその対応が可能なものにする
 - ④(もし大きな資金が得られたら)研究補助員をつける